

令和4年度 学校評価（自己評価・学校関係者評価）

1 はじめに

令和4年度の青ヶ島小中学校の教育活動に関して、学校教育法第42条、学校教育法施行規則第66条、67条、68条に基づき、その達成状況や達成に向けた取り組みの適切さ等について、評価を行い、改善方策を講じることを学校評価といいます。学校評価を行うにあたり、学校自らが評価を行う事を自己評価といい、①教職員による「重点的な取り組みと評価」に対しての総合的な評価を行います。その際の参考として、②児童・生徒による授業評価、③地域・保護者による「学校の教育活動に関するアンケート」を活用し、多面的に評価を行います。その自己評価に対して、地域や保護者からなる評価委員会（青ヶ島においては学校運営協議会が行う）が、評価を行うことを学校関係者評価といいます。自己評価並びに学校関係者評価は、村民に対して公表することとなっています。

2 令和4年度の教育目標と目指す児童・生徒像

教育目標「自立」

小学校 ・よく考え やりとげる子

・思いやりがあり 助け合う子

・明るく たくましい子

中学校 ・自ら考え、工夫し、進んで学びつづける生徒

・心豊かで、互いに尊重し合える生徒

・心身ともに健康で、たくましく生きる生徒

3 中期的目標と方策

（1）基礎的・基本的な学力の定着・向上

ア 個に応じた指導の充実



タブレット端末を効果的に活用した学習の充実

イ 協働的な学び場の工夫



合同学習（学級活動等）による協働的な学びの工夫

ウ 地域を教材とした学習の推進



さつまいもの栽培活動等、地域教材を生かした学習

(2) 豊かな心をもち、思いやりのある児童・生徒の育成

ア 人権尊重教育の推進



人権尊重教育を基底とした心を耕す道徳教育の充実

イ 児童・生徒一人一人の理解の徹底



9年間を見通した生活指導の充実（生活オリエンテーションの様子）

ウ 多様性の尊重



地域交流会（ボッチャ体験）の実施

(3) 心と体の健康教育

ア 運動の日常化



体育集会（マラソン、なわとび）、マラソン大会、八丈陸上記録会など、運動の日常化を目指した取組



イ 自然体験



パッションフルーツ収穫体験、大杉自然探索等、自然体験活動の充実

(4) 保護者・地域との協働の推進

ア 学校運営協議会との協働の推進



学校運営協議会との連携・協働（年間10回程度開催）、教職員と運営協議員との懇談会の実施

イ 地域に開かれた学校行事の推進



土曜日授業、運動会、学習発表会などの地域に開かれた教育活動の推進

4 自己評価について

前述の中期目標を達成するために、令和4年度の重点的な取り組みとして、「学習指導」「生活指導・進路指導」「特別活動・その他」「学校運営」の4領域の項目に取組目標等を設定し、その達成度を評価しました。また、児童・生徒による授業評価、地域・保護者による「学校の教育活動に関するアンケート」を実施し、自己評価の参考としました。

(1) 教職員による「重点的な取り組みと評価」(実施日：令和4年11月)

①小学校教員(7名)

※濃い網掛けは、本校として課題と捉える評価項目。

※達成度は、教員が下記の4段階で自己評価した結果を集計した平均値です。

「A」ほぼ達成(90%) 「B」おおむね達成(70%) 「C」やや不十分(40%)
「D」不十分(20%)

領域	評価目標	評価項目	達成度			
			A	B	C	D
1	ア 楽しく分かりやすい授業	①児童・生徒一人一人の個性を把握し、一人一人に応じた指導の充実	0%	100%	0%	0%
2		②協働的な学びの場の工夫(合同学習、合同道徳、他の教師の授業参加、他校とのオンライン授業等)	0%	71%	29%	0%
3		③地域の特性を生かした学習活動の検討・展開(各教科における地域の教材化)	0%	71%	29%	0%
4		④ICTを活用した授業の工夫(タブレットPCの効果的な活用、協働的な学びでの活用等)	0%	71%	29%	0%
5		⑤家庭学習の定着(家庭学習に関する日常的指導、宿題、ICTの活用等)	0%	100%	0%	0%
6		⑥体力向上の取組(授業及び休み時間等での運動量の確保や様々な取組)	0%	86%	14%	0%
7	イ 一人一人の特性を理解し、心に寄り添う指導の実現	①人権尊重教育を基底とした、心を耕す道徳教育の充実(全教員による道徳授業の実践)	14%	43%	43%	0%
8		②あいさつの励行(日々の活動、あいさつ運動、全校朝会、中学校朝会、児童集会)	14%	29%	57%	0%
9		③児童・生徒の個性の理解と報告・連絡・相談の徹底(早期発見・早期対応)	29%	57%	14%	0%
10		④小中併設校の特色を生かした9年間を見通した生活指導の充実	29%	29%	43%	0%
11	ウ すすんで取り組み、責任をもってやり遂げる活動	①異年齢交流を通じた思いやりの心の醸成	14%	57%	29%	0%
12		②自主性を生かした活動の実施(当番活動・部活動・くろしお会活動)	0%	43%	57%	0%
13		③地域の特性を取り入れた行事等(自然、歴史、伝統、文化、生活)	0%	100%	0%	0%
14	エ 全教職員の学校運営への参画	①教職員が一丸となった組織運営(分掌職務の十分な共通理解と円滑な遂行、報告・連絡・相談の徹底)	0%	43%	57%	0%
15		②保護者・地域への教育情報の適切な発信(保護者会や学校便り、HPの充実)	0%	100%	0%	0%
16		③学校運営協議会との協働	14%	72%	14%	0%
17		④運動会当日の地域の方の運営参加の推進	14%	58%	14%	14%
18	オ 教育公務員としての資質・能力の向上	①教育公務員としてのコンプライアンスの徹底(服務事故防止研修等)	14%	86%	0%	0%
19		②校内研究による授業研究や研修の実施(校内研究授業、授業力向上研修等)	14%	86%	0%	0%
20		③東京都教職員研修センター等で開催される研修会等への積極的参加(WEBの活用含む)	14%	71%	14%	0%
21		④スクール・サポート・スタッフとの連携、教職員の仕事の効率化等ライフ・ワーク・バランスの推進	0%	86%	14%	0%

②中学校教員（10名）

※濃い網掛けは、本校として課題と捉える評価項目。

※達成度は、教員が下記の4段階で自己評価した結果を集計した平均値です。

「A」ほぼ達成（90%） 「B」おおむね達成（70%） 「C」やや不十分（40%）
「D」不十分（20%）

領域	評価目標	評価項目	達成度			
			A	B	C	D
1	ア 楽しく分かりやすい授業	①児童・生徒一人一人の個性を把握し、一人一人に応じた指導の充実	100%	0%	0%	0%
2		②協働的な学びの場の工夫（合同学習、合同道徳、他の教師の授業参加、他校とのオンライン授業等）	50%	40%	10%	0%
3		③地域の特性を生かした学習活動の検討・展開（各教科における地域の教材化）	30%	50%	20%	0%
4		④ICTを活用した授業の工夫（タブレットPCの効果的な活用、協働的な学びでの活用等）	30%	70%	11%	0%
5		⑤家庭学習の定着（家庭学習に関する日常的指導、宿題、ICTの活用等）	10%	80%	10%	0%
6		⑥体力向上の取組（授業及び休み時間等での運動量の確保や様々な取組）	20%	70%	10%	0%
7	イ 一人一人の特性を理解し、心に寄り添う指導の実現	①人権尊重教育を基底とした、心を耕す道徳教育の充実（全教員による道徳授業の実践）	40%	50%	10%	0%
8		②あいさつの励行（日々の活動、あいさつ運動、全校朝会、中学校朝会、児童集会）	40%	60%	0%	0%
9		③児童・生徒の個性の理解と報告・連絡・相談の徹底（早期発見・早期対応）	50%	50%	0%	0%
10		④小中併設校の特色を生かした9年間を見通した生活指導の充実	30%	20%	50%	0%
11	ウ すすんで取り組み、責任をもってやり遂げる活動	①異年齢交流を通じた思いやりの心の醸成	50%	40%	18%	0%
12		②自主性を生かした活動の実施（当番活動・部活動・くろしお会活動）	30%	60%	10%	0%
13		③地域の特性を取り入れた行事等（自然、歴史、伝統、文化、生活）	50%	50%	0%	0%
14	エ 全教職員の学校運営への参画	①教職員が一丸となった組織運営（分掌職務の十分な共通理解と円滑な遂行、報告・連絡・相談の徹底）	60%	40%	24%	0%
15		②保護者・地域への教育情報の適切な発信（保護者会や学校便り、HPの充実）	30%	70%	0%	0%
16		③学校運営協議会との協働	40%	60%	6%	0%
17		④運動会当日の地域の方の運営参加の推進	50%	50%	6%	6%
18	オ 教育公務員としての資質・能力の向上	①教育公務員としてのコンプライアンスの徹底（服務事故防止研修等）	70%	30%	0%	0%
19		②校内研究による授業研究や研修の実施（校内研究授業、授業力向上研修等）	50%	40%	10%	0%
20		③東京都教職員研修センター等で開催される研修会等への積極的参加（WEBの活用含む）	60%	40%	0%	0%
21		④スクール・サポート・スタッフとの連携、教職員の仕事の効率化等ライフ・ワーク・バランスの推進	30%	60%	10%	0%

(2) 児童・生徒による授業評価（令和5年11月実施）

①小学生※濃い網掛けは、本校として課題と捉える評価項目。

※第1・2学年は、下記の3段階で自己評価した結果を集計した平均値です。

「A」とてもそうおもう 「B」そうおもう 「C」あまりそうおもわない

※第3～6学年は、下記の4段階で自己評価した結果を集計した平均値です。

「A」そう思う 「B」 ややそう思う 「C」 あまり思わない 「D」 思わない

【学習の取組状況に関する設問】

	設問	A	B	C	D
1	授業に進んで取り組んでいる	82%	17%	1%	0%
2	授業前に、学習道具の準備をしている	97%	3%	0%	0%
3	わかるまで、ねばり強く考えている	61%	36%	3%	0%
4	発表や質問をしっかりと聞いている	84%	15%	1%	0%
5	相手が分かるように、自分の考えを伝えようとしている	68%	31%	1%	0%
6	学習のルールを守っている	80%	19%	1%	0%
7	学習した内容がわかるように、ノートを書いている	64%	3%	13%	20%

【教員の授業に関する設問】

	設問	A	B	C	D
1	先生が黒板に書く字は、わかりやすい	95%	4%	1%	0%
2	先生は、自分の話をしっかりと聞いてくれる	91%	9%	0%	0%
3	先生の授業の進む速さは、ちょうどよい	96%	3%	1%	0%
4	先生の声の大きさや話す速さは、ちょうどよい	95%	4%	1%	0%
5	先生の指示や説明は、わかりやすい	98%	1%	1%	0%

※設問は学年に応じた文言を使って質問した。表は高学年対象の文言。

②中学生※濃い網掛けは、本校として課題と捉える評価項目。

※中学生は、下記の4段階で自己評価した結果を集計した平均値です。

「4」そう思う 「3」 ややそう思う 「2」 あまり思わない 「1」 思わない

【学習の取組状況に関する設問】

	設問	A	B	C	D
1	持ち物や宿題などの事前準備をして授業にのぞめている	77%	20%	3%	0%
2	授業に意欲的に取り組んでいる	83%	17%	0%	0%
3	先生の話を集中して聞いている	83%	17%	0%	0%
4	わからないことを質問などによって自分から解決できている	63%	17%	20%	0%
5	学習内容をノートやプリントなどにまとめられている	70%	27%	3%	0%
6	毎授業、学んだことを振り返ることができている	63%	3%	3%	30%

【教員の授業に関する設問】

	設問	A	B	C	D
1	いろいろな工夫がされた、わたしにとって充実した授業である	83%	17%	0%	0%
2	授業の時間にすること（目標）がはっきりしている	87%	13%	0%	0%
3	話すときに先生は私を見て話している	90%	10%	0%	0%
4	先生は私の質問を丁寧に聞いている	87%	13%	0%	0%
5	学習のルールを決め、守れるように徹底している	67%	13%	20%	0%
6	先生の説明や指示がわかりやすく自分に合っている	77%	23%	0%	0%
7	授業中、先生は私の学習状況によく気を配っている	77%	23%	0%	0%
8	先生の授業のスピードや進度は私にちょうど良い	80%	20%	0%	0%
9	先生は次の授業の持ち物や宿題をしっかりと確認している	97%	3%	0%	0%

(3) 地域・保護者の「学校の教育活動に関するアンケート」(実施日：令和4年11月)

回答数：10名 地域・保護者が、4段階で回答した数値(人数)

「A」：よくあてはまる(強くそう思う) 「B」：ほぼあてはまる(ほぼそう思う)
 「C」：あまりあてはまらない(あまり思わない) 「D」：あてはまらない(全く思わない)
 「無」：無回答・分からない

※濃い網掛けは、本校として課題と捉える評価項目。

評価目標	評価項目	A	B	C	D	無
ア 楽しく分かりやすい授業	①学校は、児童・生徒一人一人に指導方法を工夫して、分かりやすく楽しい授業を行っている。	70%	30%	0%	0%	0%
	②学校は、地域人材を積極的に活用したり、地域の特性を生かした学習活動を行ったりしている。	70%	20%	10%	0%	0%
	③学校は、ICT(学習機器)を活用し、授業などで工夫して行っている。	50%	40%	0%	0%	10%
	④児童・生徒は、宿題をしっかりと取り組むなど、家庭学習の習慣が定着している。	40%	50%	0%	0%	10%
	⑤児童・生徒は、授業や学校行事などを通して体力が向上している。	60%	20%	10%	0%	10%
イ 一人一人の特性を理解し、心に寄り添う指導の実現	①学校は、道徳教育を充実させることを通して、人権意識や豊かな心を育てようとしている。	50%	40%	0%	10%	0%
	②学校は、いじめや事故防止に配慮し、快適で安全な生活が送れるようにしている。	70%	30%	0%	0%	0%
	③児童・生徒はしっかりと挨拶ができる。また、社会のルールやマナーを身に付けている。	40%	60%	0%	0%	0%
	④児童・生徒は、小中併設の特色を生かした教育活動に取り組んでいる。	70%	20%	10%	0%	0%
	⑤児童・生徒は、他人を思いやり、生命を尊重する心が育っている。	50%	40%	0%	0%	10%
ウ すすんで取り組み、責任をもってやり遂げる活動	①児童・生徒は、異年齢交流を通して、思いやりの心を育てている。	50%	50%	0%	0%	0%
	②児童・生徒は、学校での学習活動や行事等に取り組むことで自主性が身に付いている。	50%	40%	0%	0%	10%
	③児童・生徒は、地域の特性を生かした行事に参加している。	80%	20%	0%	0%	0%
	④児童・生徒は、移動教室や修学旅行などで、充実した活動を行っている。	70%	30%	0%	0%	0%
エ 全教職員の学校運営への参画	①学校は、教職員が一丸となって教育活動や地域の活動にあたっている。	70%	30%	0%	0%	0%
	②学校は、保護者会や学校便り、学校ホームページなどを通して、保護者や地域に教育情報を発信している。	90%	10%	0%	0%	0%
	③学校は、学校運営協議会と連携を取り、協働して運営している。	60%	30%	0%	0%	10%
	④学校は、運動会などの開催において、地域の方々と連携して運営を行った。	70%	30%	0%	0%	0%
オ 校内環境	①学校は、設備・備品は充実しており、満足できる学習環境である。	70%	30%	0%	0%	0%
	②学校は、校庭やプール等の校内整備や校内美化に取り組んでいる。	90%	10%	0%	0%	0%

5 自己評価

(1) 教職員による「重点的な取り組みと評価」について

小学校教員・中学校教員による評価結果において、特に、肯定的な割合が低い項目については、重点的に改善していく。その中で、下記の項目については、小・中学校として共通の課題として改善策に取り組んでいく。

○ア-③地域の特性を生かした学習活動の検討・展開について

本項目について肯定的な回答は、小学校教員が71%、中学校教員が80%であった。

地域教材・地域人材を活用した学習に関しては、各教科等の年間指導計画の位置付けが不明確であるため、より意図的・計画的に実施していく必要がある。そのために、令和5年度地域の特性を生かした学習活動の年間指導計画を作成する。さらに、年度初めに、学校運営協議会委員の皆様と連携を図り、地域内の施設見学・訪問、ゲストティーチャーの依頼等について計画するなど、地域との関わりを大切に学習活動の充実を図っていく。

○イ-④小中併設校の特色を生かした生活指導の充実について

本項目について肯定的な回答は、小学校教員が58%、中学校教員が50%であった。

本校は、児童・生徒数が極めて少ないため、教員が児童・生徒一人一人に対して丁寧に支援・指導している状況である。しかし、児童・生徒自らが主体的に判断し行動する経験を積み重ねていくことができるように、支援方法・指導方法を見直す必要がある。本校で育てたい児童・生徒像をより明確にして、家庭と連携を図りながら、児童・生徒一人一人に応じた支援・指導をより一層工夫していく。

(2) 「児童・生徒による授業評価」について

学習の取組状況に関する項目及び教員の授業に関する項目については、全項目において、「とても思う・そう思う」「そう思う・ややそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合が80%を超えている。特に、「とてもそう思う・そう思う」の割合が低い項目については、下記の通り重点的に改善していく。

○主体的に学習に取り組む態度について

- ・「(小学校) わかるまで、粘り強く考えている。」については、「とてもそう思う・そう思う」の割合が61%であった。「(中学校) わからないことを質問などによって自分から解決できている」については、「とてもそう思う・そう思う」の割合が63%であった。
- ・主体的に学習する態度とは、粘り強く学習する態度や自分の学びを調整する態度を育成することである。そのような態度を育成するために、興味関心をもって取り組める学習課題を設定し、課題を解決しようと、粘り強く、繰り返し試行錯誤する姿につなげていく。また、児童・生徒自らが、学習の計画を立て、見通しをもって取り組むとともに、適宜学習を振り返りながら、自分の学びを調整できるようにするなど、単元計画を工夫していく。
- ・タブレット端末に学習した成果を蓄積するとともに、Google フォーム等を活用して学習を振り返らせるなど、児童・生徒が主体的に学習に取り組むことができるように、ICT を活用した学びを一層充実させていく。

(3) 「地域・保護者の『学校の教育活動に関するアンケート』」について

全20項目において、「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」を合わせると肯定的な回答が、80%を超えている。特に、「あまり当てはまらない」「あてはまらない」「無回答・分からない」という回答があった項目について、本校の取組状況を説明するとともに、下記の通り重点的に改善していく。

○ア-②地域の特性を生かした学習活動の充実とエ-③学校運営協議会との連携・協働について

- ・本校では、各教科等の特質を踏まえて、小・中学校各学年の発達の段階に応じて、「かんも

の栽培」、「村役場、郵便局、駐在所見学」、「池之沢方面デイキャンプ」、「大杉自然探索」、「青ヶ島の方言」、「職場訪問・職場体験」、「島踊り講習会」など、地域教材を生かした教育活動を行なっている。

- ・ 今後は、地域教材・地域人材を活用した学習の年間指導計画を作成し、地域との関わりを大切に学習を意図的・計画的に行っていく。年度初めに、学校運営協議会委員の皆様と連携を図り、地域内の施設見学・訪問、ゲストティーチャーの依頼等について計画するなど、地域との関わりを大切に学習活動の充実を図っていく。

○ア-⑤体力向上の取組について

- ・ 本校では、小学校体力向上担当者と中学校保健体育科教員が連携し、体づくり運動の運動遊びを取り入れた体育集会の実施、マラソンや縄跳び等の取組による休み時間の運動時間の確保、八丈陸上記録会に向けた取組等、体力向上の取組を行っている。
- ・ 今後は、体力向上推進計画に基づき、「令和5年度 東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査目標値」を活用した体力向上の取組の充実を図っていく。

○イ-①道徳教育の取組について

- ・ 異学年合同で、様々な教師が授業を行うことで、児童・生徒が多様な価値観に触れ、道徳的な考えを深めることができるようにするなど、創意工夫して、道徳教育を推進している。
- ・ 今後は、令和5・6年度東京都教育委員会人権尊重教育推進校の指定を受け、各教科等の年間指導計画に基づき、人権教育プログラム(学校教育編)を活用した取組を行っていく。
- ・ 特別の教科 道徳の学習では、年間指導計画に基づいて、教材提示の工夫、発問の工夫、話し合いの工夫、ワークシートの活用等、学校全体で授業改善を推進していく。

○イ-④小中併設の特色を生かした教育活動（英語教育の取組について）

- ・ 本校では、小学校の音楽、図画工作、家庭、体育、外国語、プログラミング学習（総合的な学習の時間）の授業については、中学校の教員が指導するなど、小中併設の特色を生かした教育活動を行っている。
- ・ 例えば、小学校外国語活動担当者と中学校英語科教員が連携し、小中連携した外国語活動・外国語の授業の充実、ALTの招聘、国際交流会の実施、英語検定の実施（任意）など、英語教育の取組を行っている。3月6日には、(株)TOKYO GLOBAL GATEWAYによる、東京都島嶼部プロジェクトとして、バーチャルを活用した英語プログラムをオンラインで行った。
- ・ 今後は、他校とのオンライン交流など、小中連携した英語教育の取組の充実を図っていく。

○エ-②教育情報の発信について

- ・ 今年度は、年間3回の学校公開日に加えて、地域交流会（ボッチャ体験）、給食試食会、学習発表会等、可能な限り教育活動へ参加していただく機会を設定した。また、日々の教育活動の様子や児童・生徒の学習の様子について、学校ホームページにおける学校要覧やブログ掲載、学校便り等の広報への折込、学級通信、学年便り、青小新聞の配布等、教育情報を積極的に発信した。

- ・ 今後は、学校ホームページをスマートフォンからも閲覧しやすいものにするなど、改善する予定である。引き続き、ア-③ICTを活用した授業、ア-④家庭と連携した家庭学習の取組、ア-⑤体力向上の取組、イ-⑤心の教育の取組、ウ-②学校行事の取組、エ-③学校運営協議会と連携・協働した取組など、本校の教育活動の様子をご理解いただくことができるように、教育活動の様子を積極的に発信していく。

6 学校関係者評価

(1) 委員からの質問・意見（要旨）

【教職員による「重点的な取り組みと評価」】

- ア-④「児童・生徒は、宿題をしっかりと取り組むなど、家庭学習の習慣が定着している」について、小学校教職員の回答において、全員が「B」と回答している。児童は学習内容を理解できているのか。上級生が下級生に教えてあげることがあってもよいと思う。
- イ-④「小中併設校の特色を生かした生活指導の充実について」、何をもって達成できたと捉えるのか。留学生が1年間しか在籍しない現状を踏まえ、イ④についてはアンケート項目の文言を変えると、より良いアンケートになると思う。
- エ-①「教職員が一丸となった組織運営（分掌職務の十分な共通理解と円滑な遂行、報告・連絡・相談の徹底）への参画」について、小学校教職員の肯定的な割合が低い、何が課題なのか。小学校の学級担任制については、中学校と同じ体制ではいけないのか。

【児童・生徒による授業評価】

- 児童・生徒による授業評価「教員の授業に関する設問」において、A評価の割合が高いことは素晴らしいことだと思う。
- 児童・生徒による授業評価「学習の取組状況に関する設問」の「学習した内容がわかるように、ノートを書いている。」という項目に関連して、児童が、宿題に取り組む時に理解できていない場面がある。児童は、ノートに書いているだけで内容を理解できていないのではないのか。ノートの取り方を学校で教えているのか。

【地域・保護者の『学校の教育活動に関するアンケート』】

- オ-①②校内環境について、地域・保護者は、概ね満足している回答結果だが、教職員は満足しているのか。

【その他】

- 低学年と高学年の児童が交流することはあるか。児童が公園で遊んでいるが、低学年と高学年でグループに分かれている。小学生が全学年でもっとまとまるとよいと思う。
- 本校では、金融教育を行っているか。

(2) 質問・意見に対する回答及び今後の取組・改善策

学校運営協議会委員の皆様からいただいた質問・意見を踏まえ、以下の取組・改善策を進めていく。

ア 楽しく分かりやすい授業

本校では、児童が宿題に取り組んでいる日常的な状況を「家庭学習の定着」と捉え、評価している。また、各教科等の授業においては、他校とオンラインで交流する機会を作っている。日々の授業では教員が、発達の段階に応じてノート指導を行っている。専科教科については、ノートを使用しない教科もある。低学年は、一つ一つ丁寧に書くように指導している。学年が

上がるにつれて、学習のポイントなどを自ら工夫して書くように指導している。児童は、ノートに自分の考えを書いたり、学習内容をノートにまとめたりすることで、思考が深まる。一方で、「児童が黒板に書かれた内容を美しい文字でノートに書き写していても、学習内容の理解が伴っていない」、「ノートに書き写しているだけで思考していない」などの課題が見られる。個に応じた指導の充実を図るために組織的に授業改善を推進していく必要があると考えている。

今後は、児童・生徒一人一人が、自ら考え、答えを見付けていく学習活動を通して、学ぶことの楽しさを味わい、粘り強く考え、課題を解決することができるように、組織的な授業改善を推進していく。また、小学校では、朝学習や復習場面において上級生が下級生に教える時間を設定するなど、児童同士の学び合いの充実を図ることができるような方法について検討していく。金融教育については、来年度1月に外部人材を活用した出前授業を実施する予定である。

イ 一人一人の特性を理解し、心に寄り添う指導の実現

本校において、9年間を見通した生活指導については、児童・生徒の発達段階を踏まえた「系統的な生活指導」と捉えている。児童・生徒が1年間の在籍であっても、小中学校9年間における発達段階を踏まえ、系統的な指導を行っている。

今後は、イ-④の項目については、文言を見直すとともに、児童・生徒の特性を踏まえた、系統的な指導と学校間の細やかな引継ぎ等、小中連携した指導の充実をより一層図っていく。

ウ すすんで取り組み、責任をもってやり遂げる活動

本校では、学級活動やくろしお会活動など、合同授業や異学年での交流を行っている。放課後の児童の遊びの様子については、低学年と高学年で遊びの内容や遊び方が異なる状況が見られる。

今後は、異年齢の児童一人一人が、学校の教育活動の中で、より一層望ましい人間関係を築いていくことができるように、くろしお会集会、クラブ活動、児童集会（体育集会）、学級活動の中で、引き続き異学年交流を推進していく。

エ 全教職員の学校運営への参画

本校では、施設一体型小中併設校という強みを生かし、義務教育9年間を見通した小中一貫教育を行い、小中学校共通の学校教育目標である「自立」に向け、教育活動を行っている。

現状では、多くても3名という各学級において、集団の中で切磋琢磨する経験が少なく、大人数の中での発表機会や成功体験も少ない状況にある。そのため、今年度から小学校では、児童一人一人の資質・能力を効果的に育成するために、1学級1担任制を取り払い、複数の教職員による「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するための取組を推進してきた。

複数の教員がチームで指導するため、コミュニケーションを図って共通理解を図ることが重要となるが、教員間の情報共有について課題が見られた。

今後は、小学校の担当学年の窓口となる教員を決め、保護者との連携を深めていくとともに、全学年を統率するリーダーとして統括主任を置き、教職員間の連携を強化していく。

オ 校内環境

校内環境については、教員用タブレットを6台配備していただき、情報機器の整備が整いつつある。引き続き、学校施設の老朽化に伴う修繕の要望や大型テレビ装置等の情報機器の整備など、校内環境整備を進めていくために青ヶ島教育委員会に予算要望を出していく。